



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社 サニックス

上場取引所 東 福

コード番号 4651 URL <https://sanix.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宗政 寛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経営企画本部長 (氏名) 増田 道正

TEL 092-284-5072

半期報告書提出予定日 2024年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	21,259	5.9	650	56.1	499	62.8	270	76.0
2024年3月期中間期	22,589	0.3	1,481	98.5	1,343	119.6	1,126	154.4

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 203百万円 (83.0%) 2024年3月期中間期 1,198百万円 (146.0%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	5.65	
2024年3月期中間期	23.56	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	36,230	9,113	25.1
2024年3月期	36,965	8,912	24.1

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 9,097百万円 2024年3月期 8,893百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2025年3月期	0.00	0.00			
2025年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,246	2.0	1,715	54.2	1,440	58.4	1,093	59.4	22.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 2 社 (社名) 株式会社サニックス資源開発グループ、株式会社サニックスホームビルドサービス、除外 1 社 (社名) 善日(嘉善)能源科技有限公司

(注)詳細は、添付資料10ページ「2.中間連結財務諸表及び主な注記(4)中間連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲または持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	48,919,396 株	2024年3月期	48,919,396 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,115,281 株	2024年3月期	1,115,213 株
期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	47,804,134 株	2024年3月期中間期	47,804,406 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
3. その他	12
部門別連結売上高	12

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年4月1日～9月30日)におけるわが国の経済は、社会活動の正常化に伴う個人消費の回復やインバウンド需要の高まりによって、景気は緩やかな持ち直しの動きがみられました。しかしながら、不安定な国際情勢の中、円安の影響による原材料価格やエネルギー価格の高騰、物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような社会情勢において、当社グループは、企業理念である「次世代へ快適な環境を」のもと、住環境領域、エネルギー領域、資源循環領域の各領域において、事業を通じた社会課題の解決を推進し、持続可能な社会づくりに取り組んでまいりました。

売上高につきましては、環境資源開発事業において、発電所売上では、電力市場価格が大幅に下がった影響を受け、電力卸売りよりも単価の高い小売りを主体とした売電に変更しましたが、前期程度の売電契約単価の水準に至りませんでした。また、苫小牧発電所の定期修繕において、前期は3月から4月に実施していたものを、当期は4月から5月にかけて実施したため、当中間連結会計期間における稼働日数が前期比減少したこともあり減収(前年同期比9.4%減)となりました。この結果、グループ全体の売上高は21,259百万円(前年同期比5.9%減)となりました。

利益につきましては、環境資源開発事業において、苫小牧発電所における売電契約単価が下回ったことによる減収に加え、定期修繕に伴い修繕費を計上した影響もあり、グループ全体の損益は、650百万円の営業利益(前年同期比56.1%減)、499百万円の経常利益(前年同期比62.8%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は270百万円(前年同期比76.0%減)となりました。

また、主要な関係会社における異動につきまして、当社は、2024年1月31日付の「会社分割(簡易吸収分割)による事業承継に関するお知らせ」で公表のとおり、当社P V事業(企業・法人向け太陽光発電システム等の販売・施工関連事業)を、連結子会社「株式会社サニックスエンジニアリング」に2024年7月1日付で事業承継いたしました。

なお、当社グループは、2024年5月15日に公表しました「持株会社体制への移行及び商号の変更及び定款の一部変更に関するお知らせ」のとおり、あらゆる経営環境の変化にも迅速に対応し、持続的な成長を実現していくためには、持株会社体制への移行が最適であると考え、2025年4月(予定)に持株会社体制へ移行することといたしました。住環境領域、エネルギー領域、資源循環領域ごとの事業会社を設立し事業承継することで、事業特性に応じた柔軟かつスピード感のある事業展開を行うことにより、当社グループの企業価値向上を目指してまいります。

当中間連結会計期間の各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

<住環境領域>

H S事業

H S事業では、前期より新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進してまいりました。この結果、「白蟻防除施工」が前年同期比7.1%減、「床下・天井裏換気システム」が前年同期比0.7%減となったものの、「基礎補修・家屋補強工事」が前年同期比0.9%増、住宅改修工事を含む「その他」が前年同期比25.2%増となり、売上高は6,184百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

営業損益は、前年同期比増収に加え、販売費及び一般管理費等の固定費の削減効果により、1,013百万円の営業利益(前年同期比13.7%増)となりました。

E S事業

E S事業では、ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係強化を進めてまいりました。しかしながら、提携先からの紹介案件が減少したこともあり、主力商品である「防錆機器取付施工(商品名:ドールマンショック)」が前年同期比10.4%減、「建物給排水補修施工」が前年同期比1.2%減、「建物防水塗装補修施工」が前年同期比21.8%減となり、売上高は1,277百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

営業損益は、前年同期比減収により、25百万円の営業利益(前年同期比1.0%減)となりました。

S E事業

S E事業では、戸建てに特化した太陽光発電システム等の販売に注力してまいりました。この結果、売上高は623百万円(前年同期比5.0%増)となりました。

営業損益は、採算性の改善を進めたことにより、22百万円の営業損失(前年同期は64百万円の営業損失)となりました。

<エネルギー領域>

PV事業

PV事業では、企業・法人向けに自家消費型太陽光発電システム等の販売施工、自治体へのPPA事業の提案、土地付太陽光発電所の販売、既設太陽光発電システムの機器交換、メンテナンス等に注力してまいりました。当中間連結会計期間は電力会社との系統連系の遅れや案件の大型化・高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、売上計上時期に遅れが生じたことから、売上高は3,527百万円（前年同期比15.0%減）となりました。

営業損益は、材料コストの低下等により粗利率は改善してきているものの、前年同期比減収となったこともあり、149百万円の営業損失（前年同期は50百万円の営業損失）となりました。

新電力事業

新電力事業では、2020年度冬季における卸電力取引市場（JEPX）の価格高騰等の影響を受け、電力調達にかかる価格変動リスクの低減のため、採算性の確保を優先し事業縮小を進めてまいりました。この結果、売上高は1,309百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

営業損益は、減収となったものの採算性が改善し、88百万円の営業利益（前年同期比27.8%増）となりました。

<資源循環領域>

環境資源開発事業

環境資源開発事業では、「プラスチック燃料」が前年同期比6.7%増、「廃液処理」が前年同期比7.3%増、「埋立処理」が前年同期比13.1%増となりました。しかしながら、「発電所売上」が苫小牧発電所において電力市場価格が大幅に下がった影響を受け、電力卸売りよりも単価の高い小売りを主体とした売電に変更しましたが、前期程度の売電契約単価の水準に至りませんでした。また、苫小牧発電所の定期修繕において、前期は3月から4月に実施していたものを、当期は4月から5月にかけて実施したため、稼働日数が前期比減少したこともあり前年同期比46.6%減となりました。この結果、売上高は8,376百万円（前年同期比8.9%減）となりました。

営業損益は、苫小牧発電所における減収に加え、定期修繕に伴い修繕費を計上した影響もあり、1,079百万円の営業利益（前年同期比45.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の資産合計は36,230百万円となり、前連結会計年度末比で735百万円減少しました。負債合計は27,117百万円となり、前連結会計年度末比で936百万円減少しました。純資産合計は9,113百万円となり、前連結会計年度末比で201百万円増加しました。その結果、自己資本比率は25.1%（前連結会計年度末は24.1%）となりました。

(資産)

流動資産は13,802百万円となり、前連結会計年度末比で2,408百万円減少しました。主な要因は、受取手形及び売掛金が1,613百万円、現金及び預金が1,023百万円それぞれ減少したためであります。

固定資産は22,427百万円となり、前連結会計年度末比で1,673百万円増加しました。主な要因は、機械装置及び運搬具（純額）が1,139百万円、土地が486百万円それぞれ増加したためであります。

(負債)

流動負債は16,748百万円となり、前連結会計年度末比で1,261百万円減少しました。主な要因は、短期借入金309百万円増加したものの、預り金が減少したことでその他が845百万円、支払手形及び買掛金が412百万円、未払法人税等が394百万円それぞれ減少したためであります。

固定負債は10,368百万円となり、前連結会計年度末比で325百万円増加しました。主な要因は、長期借入金196百万円、社債が150百万円それぞれ減少したものの、長期未払金が増加したことでその他が606百万円増加したためであります。

(純資産)

純資産合計は9,113百万円となり、前連結会計年度末比で201百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益270百万円を計上したためであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて1,030百万円減少し、当中間連結会計期間末には5,239百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,143百万円の収入(前年同期は2,274百万円の収入)となりました。主な要因は、仕入債務の減少が380百万円、その他流動負債の減少が347百万円、未払金の減少が207百万円あったものの、売上債権が1,613百万円減少し、税金等調整前中間純利益を499百万円計上したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,660百万円の支出(前年同期は1,377百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得により2,613百万円を支出したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、500百万円の収入(前年同期は397百万円の支出)となりました。主な要因は、割賦債務の返済による支出が411百万円あったものの、セール・アンド・割賦バックによる収入が1,092百万円あったためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月15日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,397	5,374
受取手形及び売掛金	5,436	3,823
商品及び製品	185	173
未成工事支出金	420	439
原材料及び貯蔵品	2,575	2,717
その他	1,301	1,353
貸倒引当金	△105	△77
流動資産合計	16,211	13,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,145	2,054
機械装置及び運搬具(純額)	4,718	5,858
土地	8,248	8,735
その他(純額)	2,120	2,475
有形固定資産合計	17,232	19,123
無形固定資産	484	405
投資その他の資産	3,036	2,898
固定資産合計	20,753	22,427
資産合計	36,965	36,230
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,968	1,556
電子記録債務	486	528
短期借入金	4,015	4,324
1年内返済予定の長期借入金	1,364	1,415
1年内償還予定の社債	300	300
未払金	4,503	4,456
未払法人税等	655	261
賞与引当金	283	303
再資源化費用等引当金	13	27
その他	4,418	3,573
流動負債合計	18,010	16,748
固定負債		
社債	700	550
長期借入金	4,107	3,910
役員退職慰労引当金	4	2
処分場閉鎖費用引当金	577	602
退職給付に係る負債	2,217	2,260
その他	2,436	3,042
固定負債合計	10,042	10,368
負債合計	28,053	27,117

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,041	4,205
利益剰余金	△3,968	6,137
自己株式	△1,481	△1,481
株主資本合計	8,591	8,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137	85
為替換算調整勘定	163	149
退職給付に係る調整累計額	0	0
その他の包括利益累計額合計	302	236
非支配株主持分	18	16
純資産合計	8,912	9,113
負債純資産合計	36,965	36,230

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	22,589	21,259
売上原価	14,040	13,497
売上総利益	8,548	7,761
販売費及び一般管理費	7,067	7,111
営業利益	1,481	650
営業外収益		
受取利息	6	3
受取配当金	2	2
受取地代家賃	31	16
固定資産売却益	0	13
補助金収入	3	74
その他	28	28
営業外収益合計	72	140
営業外費用		
支払利息	128	131
固定資産圧縮損	—	74
補助金返納損失	—	52
その他	82	31
営業外費用合計	210	290
経常利益	1,343	499
税金等調整前中間純利益	1,343	499
法人税、住民税及び事業税	220	140
法人税等調整額	△2	90
法人税等合計	217	230
中間純利益	1,126	269
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	1,126	270

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,126	269
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	△51
為替換算調整勘定	42	△14
退職給付に係る調整額	12	△0
その他の包括利益合計	72	△66
中間包括利益	1,198	203
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,198	203
非支配株主に係る中間包括利益	△0	△0

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,343	499
減価償却費	806	824
賞与引当金の増減額(△は減少)	14	20
処分場閉鎖費用引当金の増減額(△は減少)	27	24
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	61	43
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△48	△26
受取利息及び受取配当金	△8	△6
支払利息	128	131
売上債権の増減額(△は増加)	474	1,613
棚卸資産の増減額(△は増加)	△631	△149
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△111	△60
仕入債務の増減額(△は減少)	△461	△380
未払金の増減額(△は減少)	945	△207
未払消費税等の増減額(△は減少)	△329	△274
その他の流動負債の増減額(△は減少)	195	△347
その他	85	37
小計	2,492	1,743
利息及び配当金の受取額	9	6
利息の支払額	△127	△140
法人税等の支払額	△191	△470
法人税等の還付額	91	5
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,274	1,143
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△278	△30
定期預金の払戻による収入	516	24
有形固定資産の取得による支出	△1,370	△2,613
有形固定資産の売却による収入	10	10
無形固定資産の取得による支出	△106	△19
その他	△149	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,377	△2,660
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	391	309
長期借入れによる収入	—	560
長期借入金の返済による支出	△690	△705
社債の償還による支出	△100	△150
セール・アンド・リースバックによる収入	—	90
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△269	△276
セール・アンド・割賦バックによる収入	632	1,092
割賦債務の返済による支出	△357	△411
その他	△3	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△397	500
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	△14
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	523	△1,030
現金及び現金同等物の期首残高	3,916	6,269
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,440	5,239

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当中間連結会計期間において、株式会社サニックスホームビルドサービス及び株式会社サニックス資源開発グループは新たに設立したため、連結の範囲に含めております。また、善日(嘉善)能源科技有限公司は精算したため、連結の範囲から除外しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社グループは、2024年6月27日開催の第46回定時株主総会の決議に基づき、2024年9月2日付けで欠損補填を実施いたしました。この結果、当中間連結会計期間において資本金が9,836百万円減少し、利益剰余金が9,836百万円増加し、当中間連結会計期間末において資本金が4,205百万円、利益剰余金が6,137百万円となっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	中間 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	HS事業	ES事業	SE事業	PV事業	新電力 事業	環境資源 開発事業	合計		
売上高									
外部顧客への 売上高	5,983	1,326	594	4,151	1,335	9,198	22,589	—	22,589
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	5,983	1,326	594	4,151	1,335	9,198	22,589	—	22,589
セグメント利 益又は損失 (△)	891	26	△64	△50	69	1,981	2,853	△1,371	1,481

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用1,371百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自2024年4月1日至2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	中間 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	HS事業	ES事業	SE事業	PV事業	新電力 事業	環境資源 開発事業	合計		
売上高									
外部顧客への 売上高	6,184	1,277	622	3,527	1,309	8,337	21,259	—	21,259
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	—	1	—	—	38	39	△39	—
計	6,184	1,277	623	3,527	1,309	8,376	21,298	△39	21,259
セグメント利 益又は損失 (△)	1,013	25	△22	△149	88	1,079	2,035	△1,385	650

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用1,385百万円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

部門別連結売上高

(単位：百万円)

品目	期別 数量 単位	前中間連結会計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日		当中間連結会計期間 自 2024年4月1日 至 2024年9月30日		比較増減	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
白蟻防除施工	千坪	364	2,294	356	2,131	△8	△162
床下・天井裏換気システム	—	—	1,497	—	1,487	—	△10
基礎補修・家屋補強工事	軒	1,662	737	1,557	744	△105	6
その他	—	—	1,453	—	1,821	—	367
H S 事業部門計	—	—	5,983	—	6,184	—	200
防錆機器取付施工	本	448	493	422	441	△26	△51
建物給排水補修施工	—	—	479	—	474	—	△5
建物防水塗装補修施工	—	—	172	—	134	—	△37
その他	—	—	181	—	227	—	45
E S 事業部門計	—	—	1,326	—	1,277	—	△48
太陽光発電システム	—	—	594	—	623	—	29
S E 事業部門計	—	—	594	—	623	—	29
太陽光発電システム	—	—	4,089	—	3,452	—	△637
太陽光発電システム卸販売	—	—	14	—	3	—	△10
その他	—	—	47	—	71	—	24
P V 事業部門計	—	—	4,151	—	3,527	—	△623
売電収入	—	—	1,335	—	1,309	—	△25
新電力事業部門	—	—	1,335	—	1,309	—	△25
プラスチック燃料	t	135,577	4,719	146,700	5,037	11,123	318
発電所売上	—	—	2,618	—	1,397	—	△1,221
廃液処理	t	48,038	1,009	48,537	1,083	499	73
埋立処理	—	—	486	—	550	—	63
その他	—	—	364	—	306	—	△57
環境資源開発事業部門計	—	—	9,198	—	8,376	—	△822
その他	—	—	—	—	—	—	—
セグメント間の内部売上高調整額	—	—	—	—	△39	—	△39
売上高計	—	—	22,589	—	21,259	—	△1,330

(注) 取扱品目が多岐にわたり数量の把握が困難なものは、記載を省略しております。